

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp

ホームページ

<http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>[menu000000200/hpg000000155.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000200/hpg000000155.htm)

未来の科学者へ

氷見市中学校文化連盟会長**氷見市立西部中学校校長 米田 典子**

先ごろ、今年のノーベル賞が発表され、2人の日本人科学者の受賞がビッグニュースとして新聞の一面を飾りました。1人は生理学・医学賞の大村智教授です。自然界からはもう新規物質を見つけることは困難であるといわれる状況で、土壌の微生物から寄生虫病に効く抗生物質を開発し、年間3億人もの患者を救うことにつながりました。もう1人は、物理学賞の梶田隆章教授で、素粒子ニュートリノの質量の存在を証明し、半世紀近くも定説となっていた根本的な理論を覆す大きな発見となりました。

ノーベル賞は世界が注目する偉大な賞です。その夢の賞に昨年は3名の日本人の方々が選ばれており、それに続く今年の快挙です。2氏の出身地や出身校は郷土の誉れと受賞を喜び、日本中が祝福ムードで沸き立ちました。日本人の能力の高さを誇らしく思うとともに、教育に携わる者として、ノーベル賞を受賞された方々は小学校や中学校時代はどのように学び、その能力が育まれたのだらうと、これまでの経歴や環境にも関心が及びます。大村教授は「ものへの興味から探究が始まる。自分は自然との触れ合いが多い環境で育ってよかった。地方には研究の材料がいっぱいある。」と述べておられます。

理科の領域には、身の回りに起きる不思議な現象から好奇心や探究心をかき立てられること、生活を便利にしてくれる知恵がたくさん含まれ、私たちの暮らしと深くつながっています。夏の暑さ対策として知られる「打ち水」は、水が蒸発するときに周りの熱を奪う気化熱の仕組みを利用したものです。そして、打ち水をしたところと、していないところに温度差や気圧差が生じ、空気の流れであるそよ風も起きます。打ち水で温度を約2～3度下げることができます。また、水に濡らしたスカーフを首に巻くと涼しく感じるのも、この気化熱の働きによるものです。

その他、料理は化学反応であり、台所は実験室であるといわれ、料理がおいしくなる裏技は科学的に説明することができます。

学習によって得た知識も永久のものではなく、新たな事実の発見によって書き換えられ、生活を便利で豊かなものにしてくれます。例えば、以前は切り傷やすり傷はまず消毒して絆創膏を貼り、止血したら早く傷を乾かして治すのが一般的でした。しかし、現在はまず傷口を流水で洗い、被覆材で保護することでより早くきれいに治すことができるようになりました。消毒薬が細胞にダメージを与え治りを遅くすることや傷口からの滲出液には細胞の再生を促す作用があることが分かってきたからです。また、風邪などで発熱した場合、対症療法として解熱剤を使っていました。でも、最近では38.5℃以下の熱はむやみに下げると、かえって症状を長引かせるといわれるようになりました。発熱は体が本来もっている防御反応であり、体温を上げることで免疫力を高め、ウイルスや細菌の活動を弱めることができると分かったからです。

大村教授や梶田教授の研究のように、既に解明されたものとして定着していることの中にも驚くべき謎や真実がまだ隠れているかもしれません。ノーベル賞受賞のニュースから、常識も定説も普遍のものとは限らないということや、学習して得た知識も絶えず更新されるものであることを教えられました。

本県は、とやま科学オリンピックなど子供たちの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育を推進しています。今年のノーベル賞受賞のニュースに刺激を受け、後輩が後に続き、研究の裾野が広がること、子供たちが興味・関心、探究心をもって、未知なるものや謎の解明に挑んでいってくれることを期待します。

平成27年度 夏季研修会で学びを深める

今年度、本センターでは、「9年間の学びを繋ぐ、支援を繋ぐ」をキーワードに学習・生活両面における小中連携教育を推進しています。夏季研修会では、学力向上、生徒指導、教育相談、危機管理等の教育課題への対応力を高め、ミドルリーダーと若手教員の育成を目指した研修を企画しました。その研修会の一端をご紹介します。

若手教員向けの研修会

仲間に学ぶ研修会 7月29日(水)

大学院研修や内地留学で学んで来られた先生方を講師に、「グループアプローチの実践」「自己有能感を育てるユニバーサルデザインの在り方」について実践的な演習を交えながら学び合いました。先輩の先生方の体験談や仲間の話に刺激を受け、今後のやる気につながる研修会でした。

ふるさと学習研修会 8月4日(火)

児童生徒に「ふるさと氷見」を学習教材として教えるには、実際に、そのものを知る必要があります。今年度、氷見市に初めて勤務することになった教員や新規採用教員が、氷見市の漁港や魚々座、博物館等、市内の主な施設を見学し、氷見の魅力を発見する機会になりました。

教員の資質向上に向けての研修会

学校経営研修会 7月29日(水)

演題 学校経営に生かす「今日的な教育課題と教育法規」

講師 市教育総合センター 教育専門員 山崎 外美雄 先生

近年における教育課題を整理し、教育法規と関連付けて学ぶとともに、ミドルリーダーとして身に付けるべき資質について教えていただきました。



教育相談等コーディネータースキルアップ研修会 8月19日(水)

演題 多様な支援を要する児童生徒の実態と組織的対応

講師 富山県総合教育センター 主任研究主事 斉藤 哲也 先生

特別な支援を要する児童生徒（不登校や発達障害等）へのチームによる支援体制の在り方や、具体的事例によるロールプレイを取り入れて話をさせていただきました。

生徒指導研修会 8月19日(水)

演題 自己肯定感を高める生徒指導 ～いじめの未然防止～

講師 西部教育事務所 生活指導主事 六渡 徹 先生

児童生徒の居場所づくり、絆づくりがいじめの未然防止につながることから、具体例を基に、言葉のかけ方について教えていただきました。日頃の言動を振り返る機会となりました。

外国語活動研修会 8月19日(水)

演題 外国語活動における課題と具体的な取組について

講師 西部教育事務所 主任指導主事 新明 春生 先生

小・中学校の先生方がグループになって指導案作りに取り組み、教師と児童生徒の活動をバランスよく組み立てる授業のポイントについて教えていただきました。

教育セミナー

・第1回 8月21日(金)

演題 「特別の教科 道徳」の基本的な理解と授業づくり

講師 聖徳大学大学院 教授 吉本 恒幸 先生

道徳性を養うために①道徳的価値について理解を図る②自己を見つめる③多面的・多角的に考える④自己の生き方についての考えを深める、4つが大切であると教えていただきました。

・第2回 8月24日(月)

演題 学力を支える学級経営

講師 早稲田大学 教育・総合学術院 教授 河村 茂雄 先生

授業を良好な学びの場にするためには、満足型の学級（Q-U調査）を育成していくことが大切であり、教師には集団づくりの力が求められると教えていただきました。

ICT 活用力向上に向けての研修会

第3回 ICT活用力向上研修会開催 ～デジタルコンテンツを授業で活用するための実際～

開催日時 8月5日(水) 13:30～16:30

開催会場 朝日丘小学校

講師 富山大学人間発達科学部准教授 長谷川 春生 先生



朝日丘小学校で、デジタルコンテンツを活用した授業を考える演習を行いました。参加者が、実際にタブレット型パソコンを操作しながら指導案を考え、それらを発表し合うことを通して、様々な教科等で手軽に活用できることを学びました。

参加者からは、「それぞれの発表に対して、長谷川先生からのコメントやまとめがあり、意味付けしながら理解することができた」「安易に画像を見せるだけでなく、授業のねらいやコンテンツ活用の意図をしっかりとめて取り組むようにしたい」「グループで話し合うことを通して、多様な活用の仕方を知ることができた。2学期から実際に使っていきたい」などの感想がありました。

小・中学生の力作がそろった 氷見市児童生徒科学作品展覧会

開催期間 9月12日(土)～13日(日)

開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール



今年度の児童生徒科学作品展に小・中学校から72点(小学校34点、中学校38点)の作品応募がありました。身近な生き物や自然現象に興味・関心をもち、継続的に観察・実験を行っているものや条件をそろえて実験結果を導き出しているものなど、限られたスペースに分かりやすくまとめられた多くの素晴らしい作品が集まりました。審査の結果、以下の5作品が県の科学作品展に出品されました。

作品名	学校・学年	名前	県科学展
なぞのありじごく	久目小学校 1年	岡峯 悠奈	研究努力賞
家の庭の虫調べ4 -とんぼのめがね-	上庄小学校 4年	上田 陽斗	創意工夫賞
メダカのふしぎ	久目小学校 4年	岡峯 莉佳	創意工夫賞
電気の研究II 果物電池の不思議	十二町小学校 5年	藺生 拓海	創意工夫賞
水滴が出す音 ～どのような条件で音は発生するのか～	西條中学校 科学部	高橋 雄佑 外10名	研究努力賞

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業(開催案内)

富山第一高等学校 サッカー一部監督

大塚 一郎 氏 講演会

「日本一へのキセキ」

開催日時 11月10日(火)

13時50分～

開催会場 氷見市立北部中学校 体育館

参加対象 中学2年生、教員、一般希望者等

サッカー部を奇跡の日本一に導いた大塚一郎監督が、感動的な映像をまじえながら話されます。



新規採用教員の半年を振り返って

子供たちの成長を支える教師に



朝日丘小学校 干場 恵

この半年間、毎日が子供たちから学ぶ日々だった。素直に聞き入れる子、反発する子と様々。しかし、共通しているのは、成長したいという強い思いである。一人一人の思いに応えられるよう自分自身の力量を高め、共に悩み、共に成長を喜び合える教師を目指したい。

4年生の担任になって



比美乃江小学校 二塚 駿

私は、毎日、「笑顔」を心がけていますが、その「笑顔」を支えているのが子供たち。どんな時でも笑いに変わってしまう子供たちのしきはすばらしい力だと思う。これからも、子供たちだけでなく、私自身が子供の笑顔をもっと引き出し輝かせるように頑張っていきたい。

子供の言葉に励まされて



宮田小学校 荒田 幸平

時間をかけて教材研究した授業の後の、「今日の授業、楽しかったよ」という笑顔の子供たちの言葉が励みになる。子供たちに力を付ける授業を目指し、「学級の子供たちなら何と考えるかな」と思い浮かべながら、毎日の授業づくりに取り組みたい。

共に駆け抜けた半年



窪小学校 喜多 俊介

「先生、鬼ごっこしよう!」「先生、踊ろう!」休み時間になると、様々な要望が殺到する。どんなに疲れていても、忙しくても、一旦飛び出せば子供たちに負けまいと真剣勝負。子供たちの笑顔にパワーをもらい、共に駆け抜け、子供の成長を実感する日々であった。

愛らしい子供たちと共に



湖南小学校 宮崎 雅子

初めての学級担任に不安も多かったが、子供たちや先生方に助けられながらの半年だった。叱ってしまうことも多かったが、「先生、先生」と駆け寄ってくる愛らしい子供たちから毎日元気をもらうことができた。これからも、一つ一つ確実に、共に学んでいきたい。

体験的な活動から、共に学ぶ



上庄小学校 堀井 春香

校庭の真っ赤なりんご。総合的な学習の時間、胸を躍らせながら収穫し、ジャムや焼きりんごにいただいた。地域の方から栽培について聞き、その大変さや楽しさを肌で感じ、真剣にりんごと向き合う子供たち。その学びは、計り知れない。日々、共に学びたい。

大切な出会いの中で



海峰小学校 中谷 亮

不安ばかりの毎日、多くの先生方に支えられ、あっという間に半年が過ぎた。教員として、初めて担任する学級の楽しさと難しさを体感している。子供たちの大切な小学校生活に巡り会えた幸せを忘れず、子供たちが出会えてよかったと思える先生になっていきたい。

夢の教員生活をスタートして



北部中学校 堀下 怜奈

生徒にとって分かりやすい授業をするために、責任を強く感じた半年だった。教材研究を重ねた授業で、生徒が生き生きと学習に取り組む姿を見るととてもうれしかった。授業力を高め、人間性を豊かにし、生徒との信頼関係を深められるよう努力していきたい。

感謝の日々



十三中学校 氷見 論芳

この半年間は私を大きく成長させてくれた。分からないことが多く悩むこともあったが、その都度先輩の先生方から助言をいただき乗り越えることができた。また、学校行事等で生徒と共に悩み、活動していく中で高め合うこともできた。一つ一つの出会いと経験に感謝し、これからの教員人生を歩んでいきたい。

振り返りと今後の抱負



久目小学校 箕浦 藍

養護教諭としてできる事を考え、児童との関係づくりに力を注いできた。玄関で児童を迎え、教室を回り、心配な子供に声をかけるなどの取組を続けてきた。今は、少しずつ児童を理解できるようになってきたと思う。一人一人の心身を温かく見つめた支援を続けていきたい。